



# フランス(ボルドー)を拠点にするインディー・レーベル Talitres Records とコラボレーション 今秋、カリフォルニア在住シンガー・ソングライター、日本デビュー

ジャブアップ・レコーズ(福岡市)は、フランスのボルドーに拠点を置くレコード会社 Talitres(タリトレス) Recordsとのコラボレーションを開始します。2010年9月にTalitresよりコラボレーションのオファーをいただき、約11ヶ月間に渡り対話を続けてまいりました。そして、その第1弾(弊社通算では第3弾アーティスト)として、カリフォルニアのサンフランシスコ在住のシンガー・ソングライター、Emily Jane White(エミリー・ジェーン・ホワイト)の3枚目のアルバム「Ode To Sentience(全10曲)」の日本盤CDを全国発売することになりました。

同アルバムは、アメリカでは発売されず、2010年11月8日にTalitres Recordsよりフランス盤が発売されました。今回の日本盤CDには未発表の新曲をボーナストラックに加え、全11曲入りのエミリー・ジェーン・ホワイトの日本デビュー盤となります。さらに、歌詞対訳・解説は、「さよならホテル・カリフォルニア」等の著者としても知られる元ミュージック・ライフ、JAMの編集長の水上はるこさんです。

## ■Talitres Recordsについて [talitres.com](http://talitres.com)

Talitres Recordsは、2000年8月に設立されたフランスのボルドーを拠点にするインディー・レーベルです。フランスでは、発売された数多くの作品の評価は高く、フランス以外にドイツ、ベネルクス(ベルギー、オランダ、ルクセンブルク)にも流通されています。また、所属アーティストのヨーロッパツアーも精力的に行われています。Talitresは、Feppia(アキテーヌ地域圏の独立した出版社連盟)に加盟しています。 [www.feppia.org](http://www.feppia.org)

## ■Jabup Recordsについて [www.jabup.com](http://www.jabup.com)

Jabup Recordsは、2007年9月にスタートした福岡を拠点にするインディー・レーベルです。これまで、ミシュコ・プラヴィ(セルビア)、ラ・キャラバン・パス(フランス)の日本盤を発売し来日公演を行っています。JABUPは、2004年2月に創業した福岡を拠点にする各種イベント、ライブコンサート企画・制作オフィスです。2009年より社団法人日本イベント産業振興協会認定のイベント業務管理者です。2011年2月より東京にプレスルーム兼東京オフィスを開設し、今後はより地方との連動性を高める取り組みを行います。 [www.jace.or.jp](http://www.jace.or.jp)

# カリフォルニアが生んだ、**ヴィクトリアン・ロックの女王** 幻想と暗黒を友とする歌手、 **Emily Jane White** (エミリー・ジェーン・ホワイト)



批評家にも賞賛された過去2作品を上回る本作は、フランス以外にドイツ、ベネルクスでも発売された。

エミリー・ジェーン・ホワイトは、カリフォルニア州のフォート・ブラッグという、人々が森林伐採の話にあけくれたり、若い女の子たちがサンフランシスコに憧れたりする、メンドシーノ海岸の森林地帯にある霧にうもれた海浜の町で生まれ育ちました。若き女性ミュージシャンは早くから新たな領土への探求心を表しました。2007年からの4年間、サンフランシスコでの暮らしの中で、それまでになかった多くの旅と発見のチャンスに恵まれ、フランスのポルドーに惹かれました。

過去発表されたアルバム「Dark Undercoat(2008)」「Victorian America(2009)」、そして、最新アルバム「Ode To Sentience(2010)」は、サンフランシスコとオークランドで作詞され、サンフランシスコのベイエリアにある4つのスタジオでレコーディング及びミックスされました。

これまで通り、ジェイムス・フィンチ・ジュニア(エレクトリック・ベース、ウッド・ベース)、キャリー・ランプレヒト(バイオリン)、ヘンリー・ネイグル(ペダル・スチール、ラップ・スチール、エレクトリック・ギター)、ジェン・グラディー(チェロ、ヴォーカル)、ロス・ハリス(ドラムス)といった同じバンドメンバーで演奏されました。

「歌を書いている時、私は解放感に包まれていたわ。出来上がった作品たちは、人間関係の複雑さだけでなく、あらゆる感情に共通する率直な一面を連想させるもの。この曲を作曲している間に浄化された」と言われるように、エミリー・ジェーン・ホワイトが過去の自分自身の経験から編み出した、センチメンタル感のあふれるかなり私的なレコードです。「この曲は、人間関係の中にある感情の愚かさと複雑さを物語っています。このレコードを"Ode To Sentience"と呼ぶことを選んだのは、この曲が音楽を通して人間の個々の体験を分かち合う事ができる力を持っているからです。お互いを感じ合うことにより、音楽への潜在的な気持ちを分かち合うのです。そして、その飾り気のない真実とは、実はとても美しいことであると私は知ったのです」

美しく、全てが洗練され、感動的で光り輝くような珠玉のバラード集「Ode To Sentience」を携えて、遂にエミリー・ジェーン・ホワイトが日本デビューします。